

## 次期 S I P の各課題候補に係る検討タスクフォース（検討 T F） の設置について

令和 4 年 5 月 2 6 日  
ガバニングボード

### 1 趣旨

令和 5 年度から実施予定の次期の戦略的イノベーション創造プログラム（次期 S I P）に向けて、「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」（令和 3 年 3 月 2 6 日閣議決定）に基づき、我が国が目指す社会像（Society 5.0）からバックキャストによる検討を行い、昨年 1 2 月末にガバニングボードで 1 5 の課題候補を選定した。

本年 1 月～ 2 月には、次期 S I P の各課題候補について取り組むべき研究開発テーマの情報提供依頼（R F I）を実施したところ、産学官の幅広い関係者から、1,000 件近い応募があった。

本年 4 月には、R F I で情報提供いただいた内容を踏まえ、各課題候補のフュージビリティスタディでの検討をリードするプログラムディレクター（P D）候補の公募を行い、今般、ガバニングボードで選定した。

今後、各課題候補について、P D 候補を座長として、関係する有識者、関係府省庁、研究推進法人等で構成される検討タスクフォースを設置し、R F I の結果を参考として、次期 S I P で取り上げるべき研究テーマについて技術面・事業面からのインパクトや実現性等を踏まえた検討を行い、研究開発計画の案を作成する予定である。

このため、ガバニングボードの下に、別紙 1 の構成案にて、各課題候補に係る検討タスクフォース（検討 T F）を設置することとする。

### 2 検討事項

各課題候補に係る検討 T F は、次に掲げる事項について、調整・検討を行う。

- (1) F S の実施方針の作成（別紙 2）
- (2) 課題候補全体の基礎的調査の検討・実施
- (3) F S の対象とする個別テーマ及びその調査方法の検討、個別テーマの技術実現性・事業性・社会受容性調査の実施
- (4) 課題候補に係る社会実装戦略の検討
- (5) 課題候補に係るプロジェクト実施体制の検討
- (6) 課題候補に係る研究開発計画案の作成
- (7) 課題候補のコンセプトを示すイメージ図の作成

### 3 構成及び運営

- (1) 検討 T F の座長は、P D 候補が務める。
- (2) 座長が検討 T F に出席できない場合は、あらかじめ座長の指名する構成員（座長代理）がその職務を代理する。

- (3) 検討TFは、座長が召集する。
- (4) 座長は、必要があると認めるときは、検討TFの構成員の参加対象を限定し、また、構成員以外の者を検討TFに出席させることができる。
- (5) 検討TFにおける調整が不調の場合、最終的な判断は座長が事務局と相談の上、行う。
- (6) 検討TFは原則として非公開とする。ただし、座長が会議を公開することが適当であると判断したときは、この限りではない。
- (7) 座長は、検討TFにおける審議の内容等を議事録その他の適当な方法により公表する。ただし、座長が審議の内容等を公表しないことが適当であるとしたときは、検討TFの決定を経てその全部又は一部を非公表とすることができる。
- (8) 検討TFの運営は研究推進法人から調査分析機関等に対し業務支援を含め委託等をできることとする。
- (9) 上記のほか、検討TFの運営に必要な事項は、座長が内閣府と相談の上、定める。

#### 4 設置期間

令和4年の課題候補の検討TF設置日～令和5年3月31日まで。

#### 5 事務局

検討TFの事務局は、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局各課題候補担当が務める。

原則公開(一部必要に応じて非公開)  
 ○○検討タスクフォース決定

次期SIP課題候補○○に係るFSの実施方針(案)

※基本形としての例示であることをご理解いただき、課題候補やタスクフォースの状況に合わせて、表 2022年X月X日版  
 現や構成を変更ください。また、検討の進捗に合わせて改訂してください。

次期SIP課題候補○○について、検討タスクフォース(TF)を設置し、RFIの結果も参考にしつつ、社会実装に係る技術  
 面、事業面などの観点でのインパクトや実現性の分析調査を行い、その結果を踏まえて取り組むべき研究開発テーマを  
 抽出し、研究開発計画案を作成する。

対象とする課題候補	例:06 スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	
課題候補のコンセプト	例:地域におけるエネルギーの生産及び利用に係る技術の更なる高度化に加え、電力利用だけでなく熱利用についても考慮する需給調整に向けたエネルギーマネジメントシステムの構築、エネルギーマネジメントシステムを支える分散型電源関連、エネルギーキャリア関連技術の確立を目指す。	
目指すべき社会像と実現に当たっての社会課題	※あるべき姿や世界に対する比較として、現状の認識、問題点を記述。 ※FS前の認識で仮説として記述し、FSの進捗に合わせて更新。	
解決法とSIPで取り組むべきサブ課題の選定理由	※FS前の認識で仮説として記述し、上述の社会課題を解決する方法(技術開発又は技術開発に伴うルール整備、システム構築等)、その中で次期SIP5年間で実施すべきサブ課題を選定。 ※FSの進捗に合わせて更新。 ※基礎的調査が進展したところで、その結果を踏まえ、そのサブ課題の中核となる研究開発テーマ候補をFS対象として抽出(ex. 要素技術を組み合わせたシステムの実証により、開発が必要な技術要素を抽出)。	
課題候補の基礎的調査	目的	※上記仮説の確からしさや定量的な強み弱み比較、または社会での重要性の明確化、など
	方法	※FSで実施する基礎的調査の方法の記述。 ・技術ベンチマーク:論文、特許による対象技術分野の評価、自他国企業の標準化やオープンクローズ戦略の評価 ・プロジェクトベンチマーク:国内外プロジェクトや事業の比較(強み弱み) ・事業性:市場性、国別比較(強み弱み) ・制度・施策の進展度:各国(または地域)の規制、制度、政策の評価 ・社会実装性指標(TRL、BRLなど)の活用についての検討
サブ課題の中核的な研究開発テーマ候補の技術実現性等調査	目的	※技術実現性等調査の調査目的
	方法	※FSで実施する技術実現性等調査の方法の基本的な事項を記述。 ・個別テーマの技術実現性評価(技術ベンチマーク、ボトルネック技術の抽出、代替案) ・モデル試作、各種PoCやユーザー・各種ステークホルダーヒアリングによる事業有望性・社会的受容性評価 ・個別テーマ技術(要素技術)や他の技術を組み込んだシステムにおける技術実現性評価、事業有望性・社会受容性評価 ・技術、コスト、制度などの課題抽出、バリューチェーンの分析 ※「課題の基礎的調査」結果に応じて個別の中核的な研究開発テーマ候補が抽出されたら、内容を改訂しピボットするとともに、別紙に対象となる研究開発テーマ候補の概要を記載。

### 次期SIP課題候補○○に係るFSの実施方針(案)

※基本形としての例示であることをご理解いただき、課題候補やタスクフォースの状況に合わせて、表 2022年X月X日版  
 現や構成を変更ください。また、検討の進捗に合わせて改訂してください。

実施項目		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スケジュール	TF活動	▼KOM 方針作成	▼個別テーマ決定 ▼実施方針決定								
	基礎的調査		調査 I	→							
	個別テーマ調査										
予算(百万円)	項目	金額	体制図								
			<pre> graph TD     subgraph TF         TFChair["TF座長 (PD候補) AAA"]         Experts["有識者 (SPD候補) BBB, CCC, DDD"]         Ministries["関係省庁 CC省EE課, DD庁FF課"]         Entity["研究推進法人 独立行政法人XX"]         Inhouse["内閣府課題担当 GG"]     end     Entity --- RA["研究推進法人 独立行政法人XX"]     RA --- R["調査分析機関 R"]     R --- MX["研究機関X"]     R --- MY["研究機関Y"]     R --- MZ["研究機関Z"]           </pre>								
	合計										
その他	※備考など自由記述欄										

次期SIP課題候補○○に係るFSの実施方針(案)(別紙)

	サブ課題候補	研究開発テーマ候補	概要	担当機関
サブ課題と研究テーマ候補 ※仮説で候補を挙げたいただき、基礎的調査の後で改訂していただくのがよい	1) (サブ課題タイトルA)	①(テーマタイトル1)		XXX社
		②(テーマタイトル2)		独立行政法人YYY
	2) (サブ課題タイトルB)	①(テーマタイトル3)		
		②(テーマタイトル4)		
	3) (サブ課題タイトルC)	①(テーマタイトル5)		